



# 読書活動への扉を開く！

N o 59

桑村小学校令和5年10月24日 文責 渡邊

## 「豊かな感性」を育むために大切なこと!!

東京都大田区教育委員会幼児教育センターが発行している『幼児教育センターだより』（平成30年春号）に、「豊かな感性や表現力を育むために」というタイトルで次のような文章が掲載されていました。

子供たちの感性や表現は、日々の生活の中で培われます。例えば、見たこと感じたことなどを、動きや言葉などで表現したり、自由に描いたり作ったり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう中で、具体的な表現をしていきます。それは子供が自然に身に付けるものではなく、子供が何か表現をしたときに、そばにいる大人が共感しその気持ちを言葉で表現して返してあげる、表現する過程を大切にして自己表現を楽しめるように工夫することによって培われていきます。それが、子供たちの豊かな感性や表現をする力を養い、創造性を豊かにしていくことに繋がっていきます。  
(※下線は、渡邊が引いたもの)

上に示された「豊かな感性」の捉え方に共感するところがありました。特に、下線を引いたところです。「『感性』は自然に身に付くものではない」という主張は、まさにその通りであると思います。

桑村小学校の子供たちは、豊かな自然に囲まれたすばらしい学習環境の中で学校生活を送っています。そうした中、子供たちに豊かな感性が育まれていたかというところはどうだったのでしょうか。確かに、自然体験は、教育課程の中に計画的に設定されていました。しかし、残念なことに、体験して終わってしまうことがほとんどでした。

そこで令和4年度から始めたのが、読書体験と表現活動をつなぎ、「豊かな感性」を育む教育活動の取組です。読書をするだけでは知の獲得で終わってしまうでしょう。重要なのは、表現活動へとつなぐことで、「インプット」と「アウトプット」の双方向的な関係を構築することにあります。「読書推せん文～お気に入りの一冊をあなたへ～」や「読書を楽しむ自分へのラブレター」、「親子読書郵便」、「友達読書郵便」等、様々な活動に桑っ子たちは取り組んできました。

「豊かな感性」を身に付けるのは、子供たち自身です。読書活動から豊かな語彙や感じ方を獲得した子供たちは、自然体験を行ったとき、そこから得た思いを自分なりの言葉で感じ、自分自身を見つめることでしょう。そうした過程がとても大切なのだと思います。人は深く考えたり、感じたりするには、対象となるものを言葉で捉え、それを具体的なイメージとしてどんどん広げていくものではないかと思えます。

子供の感性を育むには、読書活動は有効です。でも、それだけでは十分とは言えません。表現活動とつなぐことで、子供たちの感性は育まれていくのです。これからも桑っ子の「豊かな感性」の育成を目指して読書体験と表現活動をつないだ教育活動に取り組んでいきたいと考えます。



【「親子読書の会」より】